

比企城館跡群小倉城跡発掘調査指導委員会会議録

会議の名称	令和7年度第2回比企城館跡群小倉城跡発掘調査指導委員会
主な議題	令和7年度発掘調査箇所(郭2)現地視察 (石川専門員による説明)
開催日時	令和8年1月30日(木) 午後1時30分～午後15時00分
開催場所	小倉城跡郭2
会議録の公開(非公開・一部非公開)とその理由	全部公開
出席委員	落合義明委員長、宮田毅委員、橋口定志委員、田中信委員、
事務局	田中和浩主幹、石川安司専門員、儘田めぐみ生涯学習課主任
記録方法	要点筆記、録音
<p>【審議等内容又は概要】</p> <p>1 開会 儘田めぐみ生涯学習課主任</p> <p>2 あいさつ 田中和浩主幹</p> <p>3 議題 石川安司専門員</p> <p>(1)推定櫓台及び斜面について</p> <p>【事務局】 櫓台と推定される場所であり、面的な調査をする。十字のベルトを設置し、可能な範囲で際まで調査する予定である。前回調査した1トレンチの西側斜面(櫓台斜面)で2段に石をはりつけたような集石遺構が確認されている。土留めをしているような状況が見られた。斜面にトレンチを設置して確認したい。</p> <p>【委員】 斜面のトレンチは櫓台部分と直角に設置する。斜面部分と上部にある櫓台部分との関係がどのようなになっているのか、どういう形で上部の面を造り出しているのかを意識して調査する。この段差を理解する上で非常に重要なトレンチになる。 ※この場で改めて、斜面トレンチの箇所を設定した。</p> <p>(2)南側の新設トレンチについて</p> <p>【事務局】 4トレンチで確認された集石の北西側(郭内側)端が未検出である。また、9トレンチで南に偏って通路と思われる硬化面が確認され、7トレンチで検出された硬化面につながる可能性がある。この箇所でも集石の端と通路となる硬化面がみられるか確認したい。</p> <p>【委員】 現在も人の通り道となっている(廓2中央やや南側を通る)硬化面の下に当時の硬化面がみられるか、また、今も通り道となっていて硬化面が今の影響と過去の痕跡によってできたものなのか、両方の可能性を考えて調査してほしい。</p> <p>(3)6トレンチについて</p> <p>【事務局】 6トレンチは前回調査を行い、複数の落ち込み、柱穴、鉄くぎ、焼けた壁土が検出されてい</p>	

る。建物に伴う可能性があり、未完掘であり継続調査を行いたい。トレンチ幅を2mに設定したが、これでよいか。

【委員】幅が2mあれば、建物があつた場合、柱穴を検出できる可能性が高いのでよいのでは。

※委員より、前回の6トレンチ北東端の位置が異なっているという指摘を受け、この場で改めて設置し直した。

(4)7 トレンチについて

【事務局】推定虎口の箇所。推定で3個体ほどの信楽壺の破片、瀬戸・美濃産の祖母懷茶壺、小倉で初の15世紀代の青磁などが出土している。上層と下層から同一個体と考えられる信楽壺の破片、祖母懷茶壺が出土しているので、時期を移さず、層を違えて丁寧に埋め戻ししている可能性がある。調査が完結していないので継続調査としたい。

【委員】現状で開口している土塁の切れる幅を確認してほしい。虎口と推定されるので、門柱を検出できる可能性がある。トレンチ7とトレンチ10とつなげて拡張する。

(2)その他

【委員】調査はあとどのくらい続くのか。

【事務局】あと2年くらいとしているが、県の担当者と協議したいと考える。文化庁より本郭以外の調査をしていなかったのでは、他の様子を明らかにしてほしいという話であった。郭2は本郭より時期が遡る遺物、器種的に違う遺物、建物遺構、造成面などが存在することが確認された。郭2で一定の様相が判明したと評価できるとおもう。文化庁と協議し、郭2の調査は収束に向かわせ、郭3の石積み等の調査へシフトしていきたいと考える。

【委員】将来的に郭2を含めて整備をしていくのか。

【事務局】山城なので要所の木を伐採するだけでも大変な労力を要し、急傾斜地の崩落の危険もある。自治体の規模から考えればハード整備は難しい。調査で出てきた成果をどう使うかということになる。環境整備を中心とする保存活用になると思う。それと並行して、郭3の石積みの保存が大きな課題となる。

4 閉会

儘田生涯学習課主任

その他審議会等の長が必要と認められた事項	配布資料 郭2トレンチ配置図
----------------------	-------------------

上記内容について、相違ないことを証します。